

第二次霧島市総合計画(後期基本計画)施策評価シート

令和7年度

政策	3. やさしさ(誰もが支えあいながら生き生きと暮らせるまちづくり)	SDGs									
施策	3. 高齢者が地域で自分らしく暮らし続けられる環境の充実										

施策で目指す姿

●住民主体の通いの場を基本とした介護予防の取組や、専門職のサポート体制を充実させることで、高齢者の自立支援や要介護度の重度化防止を図ります。
●高齢者が住み慣れた地域や施設等で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進します。
●地域住民による支え合い活動に自発的に取り組める地域づくりを目指します。

基本事業における成果・課題・改善策

1. 介護予防の推進と高齢者の生きがいづくりの充実	決算額	290,286千円
令和7年度の事業成果	令和7年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和8年度以降の改善策
●住民主体の通いの場である「地域のひろば」について、自ら介護予防に取り組む地域の116か所に対して活動支援を行った。 ●本市が実施する「きりしま元氣一番講座」(73回/年、参加延991人)や「運動体操サロン」(136回/年、参加延2,551人)等に専門職等を派遣し、地域における介護予防の普及啓発及び機能強化を図ることができた。	●「地域のひろば」の目標値である130か所に未だ満たないため、出前講座等による更なる周知や新規拡充に係る支援が必要である。また、引きこもりの方や自治会未加入の高齢者等に対して、介護予防事業への参加や周知方法について検討する必要がある。 ●「運動体操サロン」については、2会場増やし9会場とし、前期・後期で開催した。会場を増やしたものの、会場によっては継続参加者が多く、新規参加者が参加しづらい状況が見受けられる。	●「地域のひろば」については、引き続き、介護予防に資する事業として、市の出前講座や広報誌、また、社会福祉協議会の担当者が自治会に出向き事業周知を行いながら、地域包括ケア・ライフサポートワーカー等と連携し、更なる周知等を図る。 ●「運動体操サロン」の開催場所を1会場増やし10会場とし、全会場月2回実施とする。より身近な場所で多くの方が参加しやすい環境を整え、継続的な運動習慣の定着に向けて、自宅でのセルフケアの周知にも努める。
2. 高齢者の生活支援サービスの充実	決算額	838,619千円
令和7年度の事業成果	令和7年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和8年度以降の改善策
●ケアマネジメント支援及び個別事例の課題解決を目的に、関係機関が協働して地域ケア個別会議(プラン支援地域ケア会議)を11回実施した。地域包括支援ネットワークケア推進会議等で課題解決に向けた検討を行った。 ●買い物や調理等が困難である独居高齢者等(325人)に対して、延べ123,840件の配食サービスを行い、バランスの取れた食生活の支援と見守り活動を行った。	●高齢者の増加に伴い、移動手段や身体・経済的な問題等多様な相談が増えており、それぞれの課題に対しての支援体制整備が必要である。 ●独居高齢者等の増加に伴い、身体や経済的理由等により、配食サービスの利用者数が増加している。	●地域ケア個別会議で見えてきた地域課題を地域包括支援ネットワークケア推進会議等で協議し、住民や関係機関と協力しながら支援体制の整備を行う。 ●今後も配食サービスを必要とする独居高齢者等が増加すると予想されるため、社会福祉協議会等の関係機関と連携し、事業の周知活動を行い、安定したサービス提供に努める。
3. 住民参加と互いに支え合う地域福祉の推進	決算額	124,109千円
令和7年度の事業成果	令和7年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和8年度以降の改善策
●地域見守り支援員の設置地区自治公民館数は、89地区自治公民館のうち48地区自治公民館、登録支援員は322人であった。高齢者等への声かけや安否確認等の地域の実情に応じた見守り活動を行った。 ●認知症カフェを2か所増やし、認知症カフェを起点としたチームオレンジを整備したことで、認知症に対する普及啓発が図られた。 ●関係事業所と認知症高齢者等見守りネットワーク事業情報交換会を行い、事業所における課題や本人の生活の場における多様な関係機関との連携強化を図ることなどの協議を行った。	●見守り支援員設置地区自治公民館数はほぼ横ばいであるものの、登録者数は高齢化等により減少傾向にある。地域住民による見守り支援体制構築を推進するため、さらなる事業の周知が必要である。 ●全圏域で認知症カフェを実施できていない。 ●本人の生活の場に視点を向け、生活の場における多様な関係機関との連携が図れていない。	●引き続き、地区住民、地区自治公民館長、民生委員に対して関係機関等と連携し、出前講座等による周知活動を行いながら、周知方法の見直しを図る必要がある。 ●全圏域で認知症カフェを実施するため、新規設置の支援を図り、認知症カフェを起点としたチームオレンジの整備を進める。 ●本人視点での生活の場における多様な関係機関との連携強化を図るため、引き続き、認知症高齢者等見守りネットワーク事業情報交換会を開催し、さらなる関係機関との連携を図る。

施策の進捗状況

KPI (重要業績評価指数)	測定方法	実績値	進捗率	実績値の検証
		目標値	方向性	
49. 生きがいを十分・多少感じている高齢者の割合	市高齢者実態調査	72.5%	54.55%	令和7年度実施(3年毎に実態調査を行い、次回は令和10年度に調査を行う。)
		75%	↑	
50. 地域のひろば推進事業の実施箇所数	「地域のひろば推進事業」に取り組む地区自治公民館と自治会数の合計	116か所	44.00%	事業周知が進んだことなどにより前年度は増加傾向にあったが、自主運営を行う地域もあり、前年度と比較すると2か所の減となった。
		130か所	↑	
51. 心配事や愚痴を聞いてくれる人が「近隣」にいる高齢者の割合	市高齢者実態調査	6%	△60%	令和7年度実施(3年毎に実態調査を行い、次回は令和10年度に調査を行う。)
		15%	↑	
52. 地域見守り支援員の設置地区自治公民館数	「地域見守り支援員」を設置している地区自治公民館数(N-1)	48か所	△5.26%	支援員の高齢化による辞退や、事業の周知不足により新たな地区自治公民館の設置や、支援員の増員に至らなかった。
		68か所	↑	
53. 「みまもりあいアプリ」の登録者数(累計)	「みまもりあいアプリ」の登録者数の累計(N-1)	2,257人	176.17%	地域で模擬訓練や認知症サポーター養成講座の参加者にアプリの登録を依頼したところ、目標値を超える登録者数となった。
		1,800人	↑	

改善策を踏まえた施策としての取組方針
●高齢者の自立支援や介護予防を図るため、引き続き、社会福祉協議会等の関係機関と連携し事業周知を行うとともに、「運動体操サロン」については、新規の方が参加しやすいよう開催場所や回数を増やすなど、高齢者自らが様々な活動に参加しやすい取組を行う。 ●高齢者が住み慣れた地域や施設等で自分らしく暮らし続けられるよう、「地域ケア会議」や「生活支援コーディネーター」等を通じて、地域の課題や資源の発掘・整理を行い、地域の実情に合わせた地域住民による高齢者等への支援ができるよう体制の整備を関係機関と図る。 ●全圏域で「認知症カフェ」を実施するために新規設置の支援を行い、「認知症カフェ」を起点とする「チームオレンジ」の取組を推進する。また、「霧島市認知症施策推進計画」を策定し、「新しい認知症観」の普及促進や加齢による難聴対策等への取組を関係機関と連携して行う。

施策幹事課	関係課
保健福祉部長寿介護課	保健福祉部地域福祉課 / 商工観光部商工観光施設課